

研究・調査報告書

報告書番号	担当
331	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
A meta-analysis of alcohol drinking and oral and pharyngeal cancers. Part 2: results by subsites. アルコール摂取と口腔咽頭癌のメタアナリシス.第二部：部位別結果	
執筆者	
Turati F, Garavello W, Tramacere I, Bagnardi V, Rota M, Scotti L, Islami F, Corrao G, Boffetta P, La Vecchia C, Negri E.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Oral Oncol. 2010 Oct;46(10):720-6. Review.	
キーワード	
口腔咽頭癌、メタアナリシス	
要旨	
はじめに： 口腔咽頭癌は飲酒と強く関連している。我々は2009年9月までに刊行されたすべてのケースコントロール研究とコホート研究の知見を統合し、メタアナリシスの手法を用いることによって、部位別の解析結果を提示した。	
方法： 変量効果モデルを用いることによって、同一研究から得られた推定値間の相関を考慮することにより要約指標を得た。我々は変量効果メタ回帰モデルを用いることによって、量反応関係を検討した。	
結果： 非飲酒および機会飲酒群と比較すると、軽度の飲酒群の全体的な相対リスクは口腔癌(9研究)で1.17 (95%信頼区間(CI): 1.01 - 1.35)、咽頭癌(5研究)で1.23 (95%CI; 0.87 - 1.73)であり、2つの部位で有意な異質性は検出されなかった (P=0.793)。大量飲酒者の相対リスクは口腔癌 (17研究) で4.64 (95%CI; 3.78 - 5.70)、咽頭癌(17研究)で6.62 (95%CI; 4.72 - 9.29)であった(2つの部位での異質性のp値=0.075)。大量飲酒者の要約相対リスクは舌癌 (5研究) で4.11 (95%CI; 2.46 - 6.87)、口腔咽頭癌 (4研究) で7.76 (95%CI; 4.77~12.62)、下咽頭癌 (4研究) で9.03 (95%CI; 4.46 -18.27)であった。	
結論： アルコールとの関連を示す相対リスクは口腔癌より咽頭癌の方が高く、特に高用量で顕著であった。一方、舌癌との関連は口腔癌と同様であった。	